

トヨタ自動車、中国の研究開発センターを拡張

トヨタ自動車(株) (以下、トヨタ) は、中国の研究開発拠点である TMEC^(*1) において、設立時の投資計画に基づいた既存実験棟の増強、新実験棟の建設、電池評価試験棟の新設およびテストコースの増強を実施することを公表した。2018 年末以降の完成を予定している。

TMEC は、2010 年に「中国のためのクルマづくり」に向け、開発体制の現地化と強化を目的に設立された。以来、中国産ハイブリッドユニット搭載車の中国市場への普及を目指し、取り組みを推進。2012 年には主要ハイブリッドユニットの現地生産会社として「トヨタ自動車(常熟) 部品有限会社^(*2)」(ハイブリッド用トランスアクスルの製造会社)、また、2013 年には「新中源トヨタエナジーシステム有限公司^(*3)」(ハイブリッド用電池製造会社) が設立。2015 年 10 月、中国産ハイブリッドユニット搭載の「カローラハイブリッド」「レビンハイブリッド」の販売を開始した。

トヨタは、従来より、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車と、それぞれの特徴を活かしながら、全方位でエコカーの開発を進め、普及に努めている。中国においても、中国政府の「省エネ・新エネ車発展企画」のもと、環境に優しいクルマを導入していく計画であり、現在取り組みを進めているハイブリッド車の普及に加え、「カローラ」「レビン」のプラグインハイブリッド車の導入を予定している。また、燃料電池車の中国での実証実験開始に向けた準備を推進する他、中国市場への電気自動車導入についても検討していく。中国市場の競争激化、および法規制の厳格化が進む中、中国における開発拠点である TMEC の施設を拡張し、技術開発機能を強化することで、中国での「もっといいクルマ」づくりをさらに推進していく。

トヨタの専務役員で、中国本部長である大西^{ひろぢ}弘致は、広州モーターショーのプレスカンファレンスで「研究開発においても、長期的な視点から、中国での現地開発の強化に力を入れている。今後も多くの現地エンジニアを育成し、中国のお客様のニーズにこたえる、より多くのクルマを開発していきたい」と語った。

(*1) トヨタ自動車研究開発センター(中国) 有限会社 / Toyota Motor Engineering & Manufacturing (China) Co., Ltd. 略称: TMEC

(*2) トヨタ自動車(常熟) 部品有限会社 / Toyota Motor (Changshu) Auto Parts Co., Ltd. 略称: TMCAP

(*3) 新中源トヨタエナジーシステム有限公司 / Sinogy Toyota Automotive Energy System Co., Ltd. 略称: STAES

<TMEC 会社概要>

名 称	(日本語) トヨタ自動車研究開発センター (中国) 有限会社 (中国語) 豊田汽車研发中心 (中国) 有限公司 (英語名) Toyota Motor Engineering & Manufacturing (China) Co., Ltd. (略称: TMEC)
所 在 地	江蘇省 常熟高新技术産業開発区内
代 表	董事長 (会長): 大西弘致 (トヨタ自動車(株)専務役員) 副董事長: 伊勢清貴 (トヨタ自動車(株)専務役員) 副董事長・総経理 (社長): 奥平総一郎 (トヨタ自動車(株)専務役員)
資 本 金	2 億 3400 万米ドル
総投資額	6 億 8900 万米ドルを予定 (土地、建物、テストコース、試験設備等)
出資比率	トヨタ自動車(株)100%
土地面積	234 万 m ² (うち建屋面積: 6.9 万 m ² 、テストコース面積: 74 万 m ²)
主要設備	高速周回路、悪路耐久路、特性路などのテストコースやシャシーダイナモメーターの他、様々な実験設備を計画
従業員数	約 400 名 (2016 年 11 月現在)
設 立 日	2010 年 11 月 17 日
事業開始	2011 年 4 月～

以 上